

調査項目	個別課題等	地域公共交通の集約課題				
		①	②	③	④	
(1) 犬山市の現状	1	本市の人口は平成22年をピークに減少へ転じ、今後も減少傾向は継続することが予測されていることから、公共交通サービスの確保・維持に向けては、市内居住者に加え市外からの来訪者を含めて、公共交通の利用者を確保する環境整備や利用促進策を検討する必要がある。	●	●	●	●
	2	年齢3区分別の人口は、特に高齢者人口の増加が顕著で、高齢化が更に進展する見込みにあることから、高齢者の移動需要に対応した公共交通サービスを検討する必要がある。	●	●	●	●
	3	市内には7つの鉄道駅や岐阜バス、わん丸君バス、タクシー及び周辺市町のコミュニティバス等が運行されていることから、これら多様な公共交通相互の連携を高めることで利用増進を図る必要がある。	●	●	●	●
	4	名鉄電車、岐阜バス及びわん丸君バスの利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に大幅に減少していることから、予防対策の実施や実施情報の提供など、利用回復に向けては安全安心な利用環境の確保や需要を創出する取組みを検討する必要がある。	●	●	●	●
	5	名鉄電車とわん丸君バスによる人口カバー率は91.3%を有するものの、市街化調整区域の集落地等では交通空白地域が残存することから、これら地域住民の移動需要を把握した上で、地域に適した移動手段のあり方を検討する必要がある。	●	●	●	●
	6	本市の代表交通手段別構成は、自動車が約7割と増加傾向にあり、交通混雑の緩和を始め、環境への配慮や健康の増進に資する公共交通・自転車・徒歩など、適切な交通手段への転換を促す取組みを検討する必要がある。	●	●	●	●
	7	交通事業者ヒアリングでは、「ダイヤが合わず乗継ができない」「ダイヤ設定が短い」など、わん丸君相互の乗継を可能とし、かつ定時性が確保できるダイヤへの見直しが必要である。	●	●	●	●
	8	交通事業者ヒアリングでは、バス停位置と交差点の近接性による交通安全上の問題や、交通渋滞による遅延発生などが挙げられており、利用者の安全性や利便性の確保に向けた運行サービスの改善を検討する必要がある。	●	●	●	●
(2) 市民アンケート	9	自動車を週に2,3回以上運転する人は8割を占めており、公共交通の利用促進の観点からは過度な自動車利用からの転換を促す取組みを検討する必要がある。	●	●	●	●
	10	80歳頃までに運転免許証を返納しようと思う人は約5割で、免許返納後に利用したい交通手段は「わん丸君バス」とする人が約5割を占めることから、高齢化に伴う公共交通の潜在的な需要は高く、高齢者の移動需要に対応した公共交通サービスを検討する必要がある。	●	●	●	●
	11	普段の外出の目的地は、市内が5割を占め、目的施設は「カネスエ」「ヨシツヤ」「ナフコ」等の商業施設が多く挙げられている。また、市外では「小牧市」「扶桑町」「大口町」等の周辺市町への外出が多いなど、移動需要は多様化していることから、市内外の移動需要への対応など、公共交通の機能の明確化を図る必要がある。	●	●	●	●
	12	「市内を名鉄電車やわん丸君バスが走っていること」は各小学校区とも9割程度が認知する一方、「バスのダイヤやルート」、「行くことができる施設」の認知度は概ね1割程度に留まっていることから、公共交通利用を促す上では、公共交通サービス(ルート・ダイヤ・行先等)に係る周知・PRのあり方を検討する必要がある。	●	●	●	●
	13	サービスを維持・拡充していく際に重要な項目として、名鉄電車は「通勤・通学するための交通手段」、岐阜バス・わん丸君バス・タクシーは「通院・買い物するための交通手段」が高いことから、名鉄電車では朝夕の通勤・通学需要への対応、岐阜バス・わん丸君バス・タクシーでは昼間帯の買物・通院需要への対応など、各公共交通手段の機能を明確化した上で必要とするサービスの確保を図る必要がある。	●	●	●	●
	14	公共交通を利用して行きたい施設として、目的地では「市内」が約3割、目的施設では「犬山駅」「ヨシツヤ」「総合犬山中央病院」などの生活利便施設や「博物館明治村」「リトルワールド」「犬山城」などの観光施設が多く挙げられることから、利用者の確保・増進に向けては市内の商業施設に加え、観光施設などと連携した取組みを検討する必要がある。	●	●	●	●
	15	運賃や税負担への考え方は「税金・利用者の負担は現状のまま、サービスも現状維持すべき」が約3割存在する一方、「利用者の負担を増やして、サービスを向上させるべき」も約2割存在している。支払ってもよい運賃は「200円」が約5割を占める一方、「300円」が約3割存在していることから、現状の市負担額および運行サービスの継続を基本としつつ、利用者負担増によるサービスの拡大を検討する必要がある。	●	●	●	●
	16	デマンド型交通の利用意向は「利用したい」が各小学校区とも約2~4割を占める。また、求める機能としては「家のすぐそばまで行ってくれること」「目的地のすぐそばまで行ってくれること」が概ね各小学校区とも上位を占めることから、地域の高齢化や地形的要因及び移動需要を踏まえた上で、新たなモビリティサービスの導入可能性を検討する必要がある。	●	●	●	●
(3) バス利用実態調査	17	公共交通の維持や利用促進に対する取組みについて、「地域企業の協賛金や広告費などを募り、収入を増やす」「公共交通を積極的に利用する」が各小学校区とも上位を占めることから、持続可能な公共交通とするためには、地域住民や地域企業などとの連携・協力を図る必要がある。	●	●	●	●
	18	わん丸君の各コースとも、「65歳以上の高齢者」が約7~8割を占め、「買物」や「通院・お見舞い」目的の利用が多いことから、高齢者の買物や通院目的等の移動需要に対応した運行サービスを確保・維持する必要がある。	●	●	●	●
	19	善師野・塔野地線では、「週に数日以上利用する」人が8割強を占める一方、楽田西部線では約3割に留まっていることから、路線により利用頻度(利用の仕方)は異なるため、路線の利用実態を把握した上で、利用実態に即した運行サービスを確保する必要がある。	●	●	●	●
	20	わん丸君バス相互の乗継は、各コースとも約1~3割程度、隣接市町のコミュニティバスとの乗継は楽田西部線、内田線、入鹿・羽黒線で約1割未満ではあるが存在していることから、わん丸君バス相互および他の公共交通手段との乗継利便性を向上させる取組みを実施する必要がある。	●	●	●	●
	21	バス停間ODは、犬山駅や犬山中央病院を起終点とした利用が多いことから、主要集客施設に付帯するバス停では、乗継拠点としての機能・空間を確保することで、公共交通の利便性を向上させる必要がある。	●	●	●	●
	22	便別利用者数は午前9時や11時前後の便の利用が多いことから、利用実態に即した運行サービスを提供する必要がある。	●	●	●	●

公共交通を取り巻く社会情勢の変化

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う利用者数、収入の減少や、公共交通の運行を担う運転手不足問題が深刻化しており、事業継続が懸念される
- ・活性化再生法の改正により、地域公共交通計画策定が努力義務化され、自家用有償旅客運送、福祉有償運送及びスクールバス等地域の輸送資源の総動員や、既存サービスの改善徹底が促進される
- ・全国的に免許返納者が増加しており、免許返納後の移動手段の確保が求められている中、公共交通の活用が期待される
- ・公共交通分野においても、AIやIoT等の先進技術を活用した自動運転やMaaSの実現が期待される
- ・タクシー事業に係る制度改正により、事前確定運賃や一括定額運賃等柔軟な運賃制度が導入された

犬山市の上位関連計画

- ・快適な暮らしを支える都市基盤として、鉄道の機能やサービスが強化され、多くの市民が鉄道を利用するまちを目指している
- ・効率的、効果的にコミュニティバスが運行され、誰もが安心して利用できる親しみ深い移動手段を目指し、必要に応じて新たなバス運行の導入を検討
- ・過度に自動車交通に頼らないで暮らし続けたい都市を目指している
(第6次総合計画の策定進捗に合わせ修正)

<地域公共交通の集約課題>

- ① 中心市街地や市内各拠点の連携・活性化に資する公共交通体系の確保・維持
- ② 犬山駅や総合犬山中央病院等の交通結節点における快適な乗継環境の確保
- ③ 既存公共交通に新たなモビリティを加え、地域の移動特性に応じた適切な移動手段の確保
- ④ 安全・安心かつ快適に利用できる公共交通環境の確保